

第73回全国高等学校 PTA連合会大会茨城大会報告

県高P連副会長(秋高等学校PTA会長) 宮本 美智子

第73回全国高等学校PTA連合会大会茨城大会が令和6年8月22日・23日の二日間にわたって茨城県水戸市のアスタリアみとアリーナを主会場に開催され、全国から約6000人、山口県からは60人が参加しました。

大会前日の移動日は、ギネス世界記録に認定された世界最大120mの青銅製大仏「牛久大仏」を観覧。あいにくこの日は霞がかかって見えませんが、地上85mの展望台からはスカイツリーや富士山を見渡すことができるところのこと。想像を超える大きさとその迫力に圧倒された後は、国営ひたち



海浜公園へ移動。5月にはネモフィラの花で有名な「みはらしの丘」は、鮮やかな新緑のシーズンを迎えたふわふわコキアの丘に。ヒマワリやジニアなどの花々も咲き誇る花の楽園を楽しみました。夜は納豆で有名な水戸のおいしい地元料理を堪能。他校のPTA役員や先生方と様々な会話を楽しみながら情報交換、交流を深めることができ、とても意味のある一日となりました。

「歴史の町で変革を!!」～新たな時代が目に入らぬかゝを大会テーマに、1日目は5つの会場において分科会が開催されました。私が参加した第1分科会では、はじめに地元3校の高校

生による「花いけパフォーマンス」が行われました。制限時間わずか5分間の即興花いけバトルが繰り広げられ、見事な作品が完成すると、全力で楽しんだ生徒たちに会場からは大きな拍手が贈られました。つづいて「教育の過去・現在・未来」故きを温ねて新しきを知る」をテーマに、弘道館事務所主任研究員の小坪のり子氏による「藩校『弘道館』の教育」と題した講演1が行われました。水戸藩の学問は、水戸黄門で名高い2代藩主徳川光圀の時代から約250年をかけて歴史書「大日本史」の編纂を通じて形成されました。「彰考館」という編纂所の名前は光圀が過去を明らかにして将来を考える「彰往考来」という言葉から命名したもので、なんのために歴史を学ぶのか、それは将来を想像すること、未来をクリエイトするためであるという意味が込められており、その精神は水戸藩で代々大切にされてきました。9代藩主徳川齊昭の時代には、先見性、実践性、国家的視野が重んじられるようになり、吉田松陰、久坂玄瑞、渋沢栄一など多くの幕末の志士に影響を与えました。齊昭が創設した藩校「弘道館」は、藩校として日本最大規模の敷地を有し、江戸時代の総合大学的な学問所として他藩の藩校にも影響を与えことが紹介されました。

講演2では茨城大学教育学部教授の加藤崇英氏が「もっとと学校・教育がみんなに開かれる未来を展望する」と題し、庶民の「寺子屋」とエリート「藩校」のように身分制度を前提に開かれていた江戸時代の教育から、国民形成





の小学校とエリート人材養成の大学という学校の土台ができた明治時代の教育までを説明され、藩校教育が過去の教育とすれば、現在・未来の教育はどのように展開していくのかについて、社会全体で「一人一人の子どものために」「子ども自らが、主体的に、能動的に、探し、選び、自分から学ぶことができ、子どもも本位の学校・教育にしていくな課題があると解説されました。子どもたちは様々な「可能性」を持っていると同時に様々な「生きづらさ」も抱えています。そんな子どもたちの学びを高める「チーム学校」とそれを支える「教師」が求められています。そして、子ども一人一人の「可能性」を高め、「多様性」を受け入れることができる「学校」を広げていくためには、PTAの力が必要であると述べられました。

大会2日目の全体会は茨城県立大洗高等学校マーチングバンド部によるアトラクションからスタート。楽器を演奏しながら縦横にフォーメーションを展開するステージドリルは目も耳も心も奪われほど素晴らしいものでした。表彰式では山口県から文部科学大臣表彰に山口県立下関双葉高等学校PTAが、全国高等学校PTA連合会会長表彰に個人の部2名、団体の部2校が表彰されました。

記念講演では二所ノ関寛氏（第72代横綱・稀勢の里）が「人材育成の不易流行」を演題に、現役引退後、早稲田

大学大学院での学び直しを経て茨城県で二所ノ関部屋を開き、相撲の基礎運動である四股やすり足を最重要視するという伝統「不易」を大切にしつつ、土俵の数を二面に増やして効率的に稽古ができる環境整備や、1日3食9時から稽古、相撲を取らない日をつくる、若い力士には言葉よりも理解力が早いタブレット映像を使った指導を取り入れる、SNSでスケジュールを共有する等、新たな試み「流行」による力士の育成方法を説明されました。大相撲の伝統を理解しながら、科学的稽古やスポーツビジネスの要素を取り入れ、受け身ではなく自分自身で考え抜くような指導を大切にし、皆様に愛される力士、怪我に強い力士を育てたいと語られました。

少子高齢化の進行やグローバル化の進展、人工知能・AIの進化など、急激に変化する予測困難な社会においても、子どもたちの幸せのために学校と家庭、社会が力を合わせて活動するPTAの目的は変わりません。しかし、伝統を大切にすると同時に、子どもたちが夢と希望を持ち、生きる力を育むことができるよう、PTA活動も時代の変化に柔軟に対応していくことが必要であると感じています。新たな取り組みに向けてPTAの不易流行を考える機会を持つことができた大会でした。